

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 31-006

PDCA	事務事業名	企画展開催事業（博物館本館）	部課等名	教育部 博物館	担当	山本	
					内線等	23-7173	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち 節： 第2節 生涯学習の推進 基本施策： 3. 文化の継承と創造 単位施策： （2）文化の振興 個別施策： ②博物館の活用					
	根拠法令等	博物館法、半田市立博物館条例、半田市立博物館条例施行規則					
	対象・目的	企画展等で貴重な資料や文化活動を紹介することで、来館者の生涯学習の推進を図るとともに、郷土文化への愛着を深め、地域文化の向上に努める。					
	目的を達成するための手段・活動内容	・農家のくらしに関する資料を展示し、郷土の文化や自然を紹介する企画展を開催する。 ・鬼頭鍋三郎の絵画展、知多半島の工芸作家の作品展、博物館友の会の作品展、館蔵品展などを開催する。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	28年度	29年度	30年度	単位	
		①企画展の開催回数	6	6	6	回	
		②企画展の開催日数	219	191	189	日	
		事業費	2,982	1,945	1,982	千円	
		人件費	13,591	13,261	9,624	千円	
		総事業費	16,573	15,206	11,606	千円	
		活動単位当たりのコスト	28年度	29年度	30年度	単位	
	①開催期間内入館者数1人当たりのコスト	280	233	216	円		
	②						
	③						
	成 果	成果指標	28年度	29年度	30年度	単位	
		①企画展開催期間内入館者数	実績値	59,281	65,131	53,836	人
			目標値	55,000	55,000	55,000	
②		実績値					
		目標値					
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	
	事業の 評価・課題	C 企画展として、「知多半島の里山」を始め、「鬼頭鍋三郎展」、館蔵品展「書」・「番付は語る」などを開催することで、地域の自然や歴史、美術品などを多くの市民に紹介することができた。なかでも、夏の企画展期間中に植物や昆虫の生態展示を行ったことで、多くの子供たちが来館するなど賑わいをみることができた。また、図書館利用者への周知のため、ミニ展示や講演会などの関連イベントを実施するなど創意工夫に努めた。今年は企画展開催日数が少なかったため、目標を上回ることができなかったが、一日あたりの入館者数では、284.8人と、H27（275人）、H28（271人）よりも増加することができた。今後も低コストで多くの来館を促す魅力ある展示を行っていく必要がある。					
		今後の事業 の方向性	改善推進 身近なものから高度な専門性を有するものまで、テーマに合わせた客層想定を行い、幅広い年代の方への発見・学びの機会を創出していく。また、展示に併せて講演会などのイベントを開催することにより、博物館への関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図る。				
			令和元年度 の目標	成果指標	目標値	単位	
				①企画展開催期間内入館者数	55000	人	